グレンスミスの日記(にっき)

リーンゴーン
ドーン
カーン
カーン
カーン
グレンスミス死去
一八九九年
クリスマスの朝
バタン

まあ
エリザベス
またなにを
始めたの

このお父さまの
部屋 上の
兄さんが
使いたいっ
て言ってて
るから

まあそう
そうね
いい部屋
ですもの

ほおっておくのは
もったいないわ

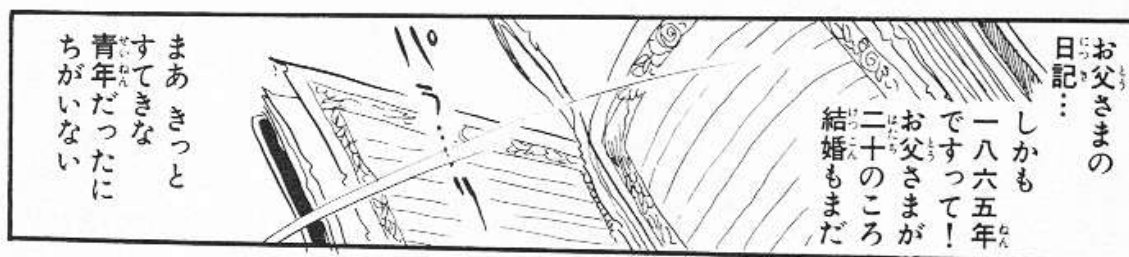
あら！
いらっしゃい
おばさま

少し
かたづけ
ものを…

どう？
少しは
元気が
ついたようね
心配したのよ

末っ子の
泣きムシ
さん…？

もう
平気よ
おばさま

死んだかたの日記なんてお嬢さま
どんな秘密が書いてあるか知れやしないし燃やしたほうが
娘の特権よ
いいじゃないの
それともそのロックあけられないの?
針金一本であきますよさびてませんし
ありがとうないしょで読むわ!
お父さまの日記…
しかも一八六五年ですって!お父さまが二十のころ結婚もまだ
まあきっとすてきな青年だったにちがいない
考えたとおり恋歌で始まっていました
お父さまの青春の日び
はなやぐ乙女たちへのあこがれと…
失恋と……
そして
七月四日ラトランド伯に招かれてサン・ダウン城へ行く
…バラの咲く村……?

七月十三日
やはり書いておこう
七日 仲間たちと
狩りに出かけ
霧にまよって一人に
なり
しげみからとび出した
少女を
あやまって撃った
撃った…
バラの咲きみだれる
村に わたしは
みちびかれたが
…そこには…
…永遠の人びとが
住んでいた……
老婆は
バラをつみ
男爵夫妻は
バラを飲み
少女は
ほほえみ
──嵐の夜
わたしの首から
少年は
血を吸い
ポーの村…!
バンパネラの
住む
バラの村…!
不死の一族が
永遠の時を
生きつづけて
いる村…!
三日目に
帰って来た
これはなに？
ロマンチストな
お父さまの
創作？
──夢？
いったい
なに？
だれに
話しても
信じては
くれまい
一八六五年
七月十三日
グレンスミス
……
だがだれも
そんな村は
知らないという
さがしたが
…みつからない
こうして
書きつけて
おく
だけにする

永遠の村……
永遠の村……
これはいったい
なんでしょう
ふしぎな物語
なぜこんな
いくどもいくども
あけられたページ
三十数年まえ
の黄ばんだ
紙の日気
なにを思って……
なにを思って……
お父さまは
いくどもいくども
読みかえし
三十年間

その人はわたしより
八つも年上の
〝世界の海の果て〟から
来たやさしい人で
屋外音楽場で
わたしたちは
知り合ったのでした
1900 9月末
それでみんなで
言ってやった
スタンドに足がはえて
美人でも追って
行っちまったんだろって
好きじゃない
わたしはそんな音楽で
生きられない
つかれては
いません
ただ一人なので
さびしいだけです
音…は
いいです
音は
いいものです
結婚してください

音楽家…!!
反対ですよ
わたしは…
エリザベス!!
そんな地位も
財産もない…
プロシア人!
…ムリを通すなら
いっさいあなたと
縁を切ります
あなたは
だまされて
いるんです
かわいそうに!

…兄たちの おばの 親せきの
無言の冷たい承認のうちに
冬の北海を渡り
彼の祖国—ドイツへ

重いトランクの底に
わたしの父
—グレンスミスの
日記をおいて

さようなら
イギリス
わたしの思い出
わたしの童話
わたしは
花嫁となって
海を渡る
トニー
…
きっと
きみを
幸せに
するよ
一生
はなさない
……

ヨーロッパの花園
ベルリンの
それは小さな
アパートで
ジュリエッタが生まれ
ユーリエが生まれ
そして末娘のアンナが
生まれ
―幸せで
幸せで…
あなた
あなた
…あなた
戦争が
始まるわ!
大丈夫
すぐに
おわるよ
ドイツ帝国が勝って
……
すぐに
……?

ドイツ皇帝が言った
〝輝かしい活気に満ちた戦争〟は
一九一四年の七月に始まり
だれもが
思いました
〝クリスマスには
おわるだろう〟
これまでにも
ボーアで
モロッコで
バルカンで世界各地で
絶えず国ぐにには権力のために
戦っていたのですから――
……でも
―長い
戦争
でした
そして
人びとは
より貧しく
空腹になり
子どもは泣き
老人はこごえ
ストライキが
おこり
でも戦争はつづき
強制徴用だよ
人手が
たりなくて
キールへ
行く…
それは直感でした
この人は帰って来ない
エリザベス
エリザベス
子どもたち
を…!
…帰って来る
からね!
この人は
帰って来ない
きっと
帰って来る
からね!
うそつきのトニー
うそつきのトニー
たくさんの約束をして
幸せの
約束を残して
うそつきの
トニー

そしてドイツは負けて—
罪をせおい…
1918. 11月
娘たちは洗濯場や髪ゆい店で働ける年になってましたが
生活は苦しくみんなが貧しく
なにもかもがつらく
悪いほうに悪いほうに転じて見え…
イギリスへ…帰ろうか
夫がもういない　今
身内に頭をさげて旅費を送ってもらってもう一度北海を渡ろうか
……花嫁となって北海を渡り……

ママ
だめよ
アンナ
ママ
だめよ
ママ
アンナ
どうしたの
ママなにも
しませんよ
アンナ
とびこむのかと思ったの
こわがらせないで
こわがらせないで
ああ
花嫁となって
海を渡り
わたしの
愛した人の
祖国へ…
気弱さは
病気の
せいで
しょう
少し
からだを
悪くして
いました
気ぶんが悪いなら
ちゃんとねてるのよ
ママ　仕事しないで
ミルク　台所の
机の上において
おきますからね
次女のユーリエは
お昼のわずかな
休みのあいだに
髪ゆいの
店から
かけて
帰って来て
家のことを
やって
くれるの
でした
この子が
一番
トニーに
似ていました
わたしが
時どき望むと
ユーリエは
細い声で
あの古い
グレンスミスの
日記を読んで
くれました
…そしてわたしは
なんとなく
心がなごむのでした

目をどうかしてユーリエ
えいえかすむだけ…つかれ目よ
ねえママは貴族のお姫さまだったのね
まあフフ昔ね
わたしおじいさまがこの日記に書いたことほんとうだと思うわ
もうずっと一生そんなバラの咲く村で暮らせたらどんなにいいでしょうね
家中の悲しみ苦しみをぜんぶせおったかのように…
ユーリエはまだ十七の冬にとつぜん……
…いってしまいました
1921.1
ゴーン
あの子はなにもいつも言わなかったのよ
つかれたとも苦しいとも一言も
ずっと一生バラの咲く村で暮らせたら…
一言も……

そんな中でのわずかな幸せは
祝福されて愛にみちた長女ジュリエッタの結婚でした
ママ愛してるわ
早く汽車にのっておいてかれますよ
ただ——若い夫婦は
1921.6
ライン河畔の遠くの町へうつってしまったのです
ママ！ママ愛してるわ！
…ママわたしがいるわよ
わたし一生ママのそばにいるわどこにも行かない
いいえおまえもいつか行くのよアンナ
いつか花嫁となって
パパや姉さんたちのように行ってしまわない
ママを一人にしない
…ママがパパについて来たように

翌年十七の秋に
アンナは結婚しました
ピエール・ヘッセン
というゆかいな
青年と
そして
ベルリンから
古いハンザ都市
ブレーメンへ
やって
来ました

ママ聞いてよ
あの人のくせ!
毎朝あ〜よ
学校の
教師ですって
あれで!
トニーも
チェロをひいたわ
いい声を
してるじゃないの
アンナ
アンナ
朝のキス
を!
キャ
つまみぐい
したわね
ピエール
ひげに
ジャム!
フフッ

バタン
いつだったろう
……
こうして
窓をあけて

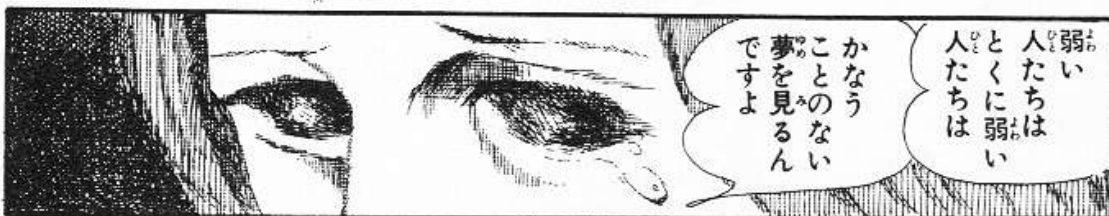
…風を入れ
たのは…
少しずつ
ドイツが
貧しさから
ぬけ出た
ように
娘たちの
結婚に
幸せが
少しずつ
もどって来た
よう……
海を渡って
二十一年…
孫が生まれたら
おばあちゃんと
呼ばれるの
でしょう

おばあちゃん！
翌年アンナとピエールのあいだに長男ピエール誕生
あらパパとおなじ名ね
翌年長女エレーナ誕生
おばあちゃん！
ついで次女ベルタ誕生
おばあちゃん
三女レラ誕生
おばーあちゃん！
…四年おいて四女マルグリッド誕生
どうしてこう女ばっかり生まれるんだ！
女系家族なのよ
食いぶちをぜんぶわたしにかせげと言うのか！
リァ リァ リァ リァ
ベルタベルタ
1933．1．30
…食いぶちが一人へったわ
ろくでなし〜っなにが教師よっ借金だらけよかいしょうなし！
わしにモンクがあるなら出て行け！
さ さおまえたちうちへおいで

いつも人びとは
不幸よりも幸せを
貧しさよりも富を
服従よりも
支配を欲し
——そして
ドイツはポーランドへ攻め入りました
末のマルグリッドが七つになった日に
あなたは
戦争に
行くの?
ピエール
さん
わたしは
行きません
わたしは
教師ですから
おばあちゃん
学校でなにを
教えてるの
数学です
計算や
原理
法則
図形ね
……わたしが
教師になったら
歴史を
教えたいわ
ぼくが
行かなかったら
だれがママと
妹たちと
おばあ
さまを
守るの
!
ヘッセン家で
男の子は
ぼくだけ
だもの!
幸せは
とどめて
おけない
ものかしら
ほんの
少しだけで
いいから
時が
うつり
人びとは
生きて
死に
歴史の
流れを
歌い
歌い…
ほんの
少しで
いいから

ツェレへ移ったほうがいいかもな兄がいる
ツェレ!?なぜまた
アンナ子どもたちのためにはそのほうがいいと思うわ
あああ戦争借金お医者教育夕食のパン!心配!
この上ひっこし!
キャッ
ガターン
マルグリッド!
あんごめんなさいおばあちゃま
窓にのろうとしたの
おてんばさん!ひっこしのじゃまばかり
古いご本ねこわしちゃったわね
いいのよ…これはあなたのひいおじいさまの日記よ
ひいおじいさま……?そんなのがなぜあるの?
……

それはそれは昔のこと…
グレンスミスは不死の一族が住むバラの咲くポーの村を見つけました
それは人間の世界の時の流れからははずれた谷間の村で
争いもなく貧しさもなく絶望もなく
深い一族の愛をもって村人は生きつづけているのでした
ポーの一族にくわわるにはただ首すじに――
おお!
あらそれバンパネラじゃない! あたしピエール兄さんにこわ～い話を聞いたわよ!
ひいおじいさまはバンパネラ…だったの?
イギリスのロングバードの家系にバンパネラがいたの?
いいえいいえ
グレンスミスは

グレン スミスは…
ああ ずっと一生 そんなバラの 咲く村で 暮らせたら ………
どんなに ……
生きて 行くってことは とても むずかしいから
ただ 日を追えば いいのだけれど 時にはとても つらいから
弱い 人たちは とくに弱い 人たちは
かなう ことのない 夢を見るんですよ
村を さがした グレン スミス
いくども いくども 古い日記を読みかえした グレンスミス
時の果てで 不死の一族の村の 幸せを追った グレンスミス……

ママ アンナと
エリザベス
おばあちゃまは
とうに
いず……

すぐ上の姉レラが
結婚して近くに
住んでいて

あちっ!

姉の一人息子
ルイスが時どき
学校の休みに
遊びに来る

オーウ
パパ～
お茶を
いただき
ませんか
また声を
はりあげて！
オッ
オ
あれ？
はは
おもしろいな！
ここに出て来る
バンパネラに
そっくりの
子が
ぼくの学校に
いるよ
こんな青い目に
巻き毛で
そりゃ
そうさ！
不死の一族の
話だと言っとる
だろう！
同一人物に
ちがい
ない！
パパ
また
悪のり！
それに
おなじ
名まえ
なんだよ！
エドガーってさ！
…メリーベルって
名の妹が
いたよ
でも
ずいぶんと
まえに

「グレンスミスの日記」　1972年6月